

人里のニエスレタ

日本ホテルの会 1996/5 第6号

犬上川

日本ホテルの会会長 日高 敏隆

今ぼくが学長をしている滋賀県立大学は、滋賀県彦根の彦根城の少し南側を流れて琵琶湖に入る犬上川の河口にあります。この川の改修工事について、大学の先生方と県の土木関係の方々とで、いろいろ話し合いをしました。その結果、治水工事の目的と、河辺林を残すこととをうまく両立させる案ができました。詳しいことはいずれお話したいと思っていますが、県もいろいろと考えてくれたことに大変感謝しています。要は河辺林の部分を島として残そうということです。島といっても、川の水量はそれほど多くはないので、島が水びたしになってしまうことはほとんどないと考えられ、林の維持と成長には支障はないものと思います。この案がきまったとき、ドイツのライン河の話を聞きました。やはり、洪水を防ぐという目的と、河に沿って林をぜひ残したいという希望とをどう両立させるかということでした。結論は犬上川の場合と同じで、現在は河沿いにある林を島として残すということになったそうです。ただし、300年に一度くらいの大増水がおこったとしたら、島や林もろとも流されてしまうかもしれない、という不安もありました。この不安に対して、一同の意見は一致しました。それは「そのときは流されてもしかたがない。自然とはそうい

うものなのだ。」ということだったそうです。犬上川について、ぼくも同じように考えていました。200年あるいは300年に一度というような大洪水がおこったら、島として残した林が流されてしまってもしかたがない。それを防ぐために、島の囲りをはがっちりコンクリートで固めたら、何十年もたたないうちに林は枯れてしまうでしょう。犬上川の流域には、貴重なトゲウオの一種の繁殖もあります。しかしこの場所だって、200年、300年に一度の大増水があったら、流されて跡形もなくなってしまうことは確かでしょう。だからといって、そうならないように頑丈なコンクリートのせきを築いたら、一年でトゲウオはいなくなるでしょう。すべてそういうものなのだと思います。大洪水があったら川の多くの部分が変わり、元トゲウオがいたところもなくなるでしょう。けれど、どこかほかの場所に元と同じような場所ができて、何とか生き残ったトゲウオがやがてそこに姿をあらわして、住み着いていくかもしれません。自然とは、そういうふうにしてきたものなのです。それが自然の論理なのです。人間は「絶対に安全でこわれない」ことを目指します。人間にとってはその方が信頼でき、安心できます。しかし、その論理で進めても限界のあることは、去

年の阪神大震災が示してくれました。もし我々が、仮にも「自然との共生」、「自然との共存」ということを口にするなら「人間の論理」を押し通すのではなく、「自然の論理」の働く余地を考えておかねばならないと思います。

去年か一昨年だったか、読売新聞が主催で「四万十川」のシンポジウムがありました。ばくが「川の論理を忘れてはならない」といったのを受けて、パネリストの一

人であった歌人の俵万智さんが、ご自分が以前つくられた作品を披露して下さいました。それは「蛇行する川には蛇行の理由があり、急げばいいっていうもんじゃないよ」というものでした。ぼくはとってもいい歌だと思っています。でも万智さんにはとっても失礼かもしれないけれど、ぼくだったら「蛇行する川には川の理由あり」といいたい気もするのですが。

第3回日本ホタルの会指導者研修会の報告

日本ホタルの会の研修でははじめての試みとして、現場の見学会を取り入れた、第3回の研修会を、1996年3月7日(木)神奈川県横須賀市岩戸町会館で開催致しました。今回はホタルを通した都市河川の保全と再生に向けて、具体的な再生方法を理論と実践を通して論議するために、ホタル復活の再生を試み一応の成果を得ることができた、横須賀市の岩戸川を見学しました。講習の内容は、矢島稔副会長が一身近な自然一小さいきものとも触れあいについて、大場信義理事が一生物からみた岩戸川の再生の経過と変遷—ホタルの生態について、また、圖谷哲男理事が一水質からみた河川環境—について講演を行いました。その後、後援者および参加者全員で再

生現場である岩戸川に歩いて見学にいきました。また、現地(岩戸川)見学では、岩戸川の再生に関し最も重要であった維持管理を河川改修の初めから携わってこられた、横須賀ホタルの会の皆様に説明をしていただきました。当日は午前中は雨でしたが、講習の始まる午後からは雨も上がり現地の見学も滞りなくできました。今回の講習会も開催日の決定が遅れ、会員の皆様への告示が大変遅くなり、また、今回も関東地方での開催となりまして、大変申し訳ありませんでした。今後できるだけ各地で、また、現場で環境を見ながら研修会を開いて行きたいと思っています。

(編集事務局)

映画「P i P i ビビ とべないホタル」

長編アニメーション映画「P i P i ビビ とべないホタル」が3月末より公開されました。この映画の原作は高岡市在住の小沢昭巳さんの「とべないホタル(ハート出版刊)」です。この作品は40年前高岡市立伏木小学校教諭だった小沢さんが、自分の

教え子の中から、教室の中から、“いじめ”をなくしたいと思い学校新聞に書き綴ったものです。この作品を読んだ子供たちからその親へ、クラスから学校へ、その地域へと感動が広がっていき1990年に童話として発行されました。全6巻で昨年までに

60万部が出版されています。映画の監督は「ドン松五郎の生活」等で知られる中田新一氏、初のアニメ演出に虫プロダクション、主題歌は松任谷由美さん、声の出演は藤田淑子、久米明、坂本千夏さんほかです。

この作品ではホタルの生態を忠実に描いているのはではありません。原作の小沢さんが述べているように、とべないホタルの悲しみとその悲しみを分け合おうとする仲間たちのやさしさを描いているのです。も

ろんアニメのホタルたちは擬人化されており、実際のホタルとは異なります。しかし、日本ホタルの会ではホタルが主人公の映画であることや、いじめをテーマに描いた作品であることなどからこの映画を推薦することにいたしました。会員の皆さんも機会があればご覧いただきたいと思います。

(編集事務局)

日本ホタルの会指導者研修会のお知らせ

第4回日本ホタルの会指導者研修会

日時 1996年6月7日(金) 14:00~16:00
19:00~21:00 (ホタル観察)

場所 宮崎県北川町

第5回日本ホタルの会指導者研修会

日時 1996年6月17日(月) 10:00~12:00

場所 福岡県甘木市キリンビール福岡工場内

目的 ホタルを通した豊かな人里の保全と再生へ向けて、具体的な行動を起こす指針を論議し考える。併せて、ホタルの里を見学し、理論、実践について学習する。

内容 研修・講義

1. 豊かな自然とは
2. ホタルの生態
3. 人里の身近な生き物
4. 質疑応答

ホタル観察(宮崎県北川町会場のみ、福岡県甘木市会場についてはボランティア研修会の6月16日に行います。)

対象 日本ホタルの会会員および一般参加希望者

募集人数 6月7日、17日それぞれ50名

応募方法 往復はがきにて日本ホタルの会事務局宛に住所、氏名、年齢、希望する会場、会員であるか否か、非会員の場合は参加目的、職業も記して申し込んで下さい。

参加費 無料

ホタル保護観察ボランティア研修会のお知らせ

日時 6月8日(土) 13:00~15:00

場所 宮崎県北川町

(主催/日本ホタルの会, 宮崎県北川町, 協力/キリンビール(株)九州支社)

日時 6月16日(日) 14:00~16:00

19:00~20:30 (ホタル観察)

場所 福岡県甘木市キリンビール福岡工場内

(主催/日本ホタルの会, 協力/キリンビール(株)九州支社)

内容 きれいな水辺に生息するホタル。そんなホタルを守るために何をすればよいのか、必要な知識は何かホタルを通して自然環境を考えるホタル保護観察ボランティア育成のための公開講演会(日高敏隆, 矢島稔, 大場信義)。

定員 6月8日, 16日それぞれ50名(一般対象, 参加費無料)

応募方法 往復はがきに住所, 氏名, 年齢, 電話番号を明記して, 希望会場宛にお申し込み下さい。

申込先 宮崎県北川町

〒889-01 宮崎県東臼杵郡北川町大字川内名7250 北川町企画課「ホタル保護観察ボランティア研修会」係

福岡県甘木市キリンビール福岡工場

〒838 福岡県甘木市大字馬田字上原3601 キリンビール福岡工場広報係「ホタル保護観察ボランティア研修会」係

人里へのニュースレター 第6号 平成8年5月20日発行



日本ホタルの会
JAPAN FIREFLIES SOCIETY

編集 日本ホタルの会 ニュースレター編集事務局

発行 日本ホタルの会

〒105 東京都渋谷区桜丘町12-8 渋谷コーポラス401

TEL 03-3463-9061 FAX 03-3463-4762

印刷 プリントランド・スガイ

〒239 神奈川県横須賀市津久井153

TEL 0468-47-0301 FAX 0468-47-0313